

平成28年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔美術〕種目〔美術〕

平成28年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科 [美術] 種目 [美術]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、美術作品等に直接触れることができる文化的施設の多い市街地をもつ。また、山林を主体とした自然豊かな地域や沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。
- 生徒は、美術への関心・意欲が比較的高く、学習に意欲的に取り組む生徒が多い一方で、生活経験の不足から、自ら主題を設定し、計画的に制作したり、自分の価値をもって批評し合ったりする力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 技法や表現方法に関する記述 ② 日本の伝統や文化に関する内容
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 技法や表現方法に関する記述

- 第1学年では、巻末8ページに「パレットコーナー」「道具箱」「色彩ホームページ」を、第2・3学年では巻末2ページに「色彩ホームページ」を掲載し、基本的な技法や表現方法等を示している。
- 題材に応じて、緑の四角囲みのコーナーを設け、表現方法の工夫や制作の手順を示している。
- 手のマークを付して、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

(2) 日本の伝統や文化に関する内容

- 第1学年で「比べてみよう」「材料を生かして」、第2・3学年で「モノトーンの世界」「伝統の美に学ぶ」等の題材を設定し、浮世絵、屏風絵、掛軸、曲げわっぱ、津軽塗、ねぶた、木版、絵巻物、水墨画、扇子、硯箱、透彫反鉢、小袖、漆手箱、陶芸、根付、沈金、手拭、紅型を取り上げている。
- 第2・3学年巻末の「色彩ホームページ」で、日本の伝統色と日本の配色文化について掲載している。
- 第2・3学年巻末に、日本・中国・アジア・西洋の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 「原寸ギャラリー」で、第1学年では「樹花鳥獸図屏風」、第2・3学年では「桜図」を取り上げ、一部を原寸大にして掲載している。
- 第2・3学年の「絵巻物の世界」では、「この題材は○ページから見てください」と絵巻物を読む方向に合わせて掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各題材の末尾に「ふりかえり」を設け、4つの観点（「関心・意欲・態度」「発想・構想」「創造的な技能」「鑑賞」）で、生徒が自己評価できるように示している。
- 「原寸ギャラリー」を設け、作品の一部を原寸大で掲載している。
- 題材に応じて鋏マークを付して、題材に関連する知識や情報を示している。
- 第2・3学年「デザインや工芸」の「デザインで伝える」で、1983年のヒロシマ・アピールズ・ポスターを扱っている。

(2) 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫

- 第1学年に「生活を豊かに」「材料を生かして」、第2・3学年に「デザインで伝える」「環境をデザインする」等の題材を設定し、生活と社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年巻頭に「美術はいつも生活や暮らしの中に」を設け、美術の学習で身に着けた力を生かして働く人々の経験や思いを掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。
- 第1学年が全57ページ、第2・3学年が107ページである。
- 1つの題材を見開き2～8ページで掲載している。
- 題材等を「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「ガイダンスや資料的な内容」に分類し配列している。
- 第1学年の題材の数は、全19、「絵や彫刻」に関するものが7、「デザインや工芸」に関するものが4、「鑑賞」に関するものが3、「ガイダンスや資料的な内容」に関するものが5である。
- 第2・3学年の題材の数は、全29、「絵や彫刻」に関するものが9、「デザインや工芸」に関するものが8、「鑑賞」に関するものが11、「材料や用具等学習を支える資料」に関するものが1である。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 第2・3学年の題材「デザインで伝える」で、生徒の関心に応じてロゴタイプ、ポスター、絵本、アニメーション等の表現方法を生徒が選べるように設定している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。
- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品ともに一部のものには、(作者)と付し、作品に対する思い等を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- 題材名をゴシック体で、題材のポイントとなることを大きく示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、写真の配置や配色が工夫されている。

5 言語活動の充実

(1) 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

- 鑑賞の題材には、話し合いのきっかけになる問いかけが設定されている。
- 意見交換しながら作品を制作したり話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- 第2・3学年の「デザインで伝える」や「デザインする心」等で、マインドマップやブレインストーミングを活用した話し合いやプレゼンテーション等の言語活動例を、写真を付して示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 技法や表現方法に関する記述

- 第1学年では、巻末18ページに「絵の具で」「さまざまな技法で」「形と材料の特徴」等を、第2・3学年では巻末20ページに、「映像メディアを活用」「金属や石で」「色と光の特徴」等を掲載し、多種多様な技法や表現方法等を示している。
- 題材に応じて、制作の手順を示すコーナーを設けている。
- 矢印を付して、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

(2) 日本の伝統や文化に関する内容

- 第1学年で「自然とともにある日本の美」「文様、飾りの小宇宙」、第2・3学年で「情景気持ちを重ねて」「浮世絵から学ぶ江戸の職人技」等の題材を設定し、彫刻、木版画、木彫、屏風絵、文様、小鹿田焼、多版多色摺木版、油彩、水彩、墨絵、金工、浮世絵を取り上げている。
- 第2・3学年巻末の「色と光の特徴を知ろう」で、日本の伝統色、顔料、重ねの色目について掲載している。
- 第2・3学年巻末に、日本・朝鮮・中国・世界の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 「原寸大で鑑賞しよう」で、第1学年では「火焰型土器」、第2・3学年では「鳥獣花木図屏風」「平螺鈿背円鏡」を取り上げ、作品の一部を原寸大で掲載している。
- 第2・3学年巻末に「トピックス美術史」を設け、世界と日本の美術史について「飛鳥・奈良時代の仏像」「ジャポニスム」等6つのトピックを取り上げて掲載している。
- 「特別展示室」で、第1学年では「風神雷神図屏風」「風神・雷神像」を取り上げ、関連する詩を掲載している。また、第2・3学年巻頭の「うつくしい!」では阿修羅像の上半身を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示すとともに、各目標の横にチェックできる枠を設け、生徒が自己評価できるようにしている。また、目標の下にQマークを付し、形や色、材料等のことや、それらがもたらすイメージについて考えさせるための問いかけを示している。
- 「特別展示室」を設け、見開き4ページで美術作品を大きく掲載している。また、鑑賞の題材「原寸大で鑑賞しよう」を設け、作品の一部を原寸大で掲載している。
- 電球マークやハートマークを付して、学習を進める際のヒントや道徳との関連を示している。
- 題材により、生活と美術とのかかわりや作家の活動等、学習を深める内容を四角の枠の中にコラムとして示している。
- 第2・3学年「デザインや工芸等」の「メッセージを伝えるポスター」で、2013年までのヒロシマ・アピールズの全ポスターを扱っている。

(2) 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫

- 第1学年に「気持ちを伝えるデザイン」「生活の中の焼き物」、第2・3学年に「みんなのためのデザイン」「包みの工夫、パッケージデザイン」等の題材を設定し、生活や社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年巻頭に「朝起きてから夜眠るまでの美術」やコラムを設け、一日の生活の中で美術にかかわるものを掲載し、日々の生活や社会と美術のつながりを考えさせるようにしている。
- 生活と関連の深い活動に、「生活に生かそう」マークを付している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。
- 第1学年が全67ページ、第2・3学年が105ページである。
- 1つの題材を見開き2ページで掲載し、各学年とも表現中心の題材のうち見開き4ページで掲載しているものもある。
- 題材等を「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「材料や用具等学習を支える資料」に分類し配列している。
- 第1学年の題材の数は、全27、「絵や彫刻」に関するものが6、「デザインや工芸」に関するものが5、「鑑賞」に関するものが7、「材料や用具等学習を支える資料」に関するものが9である。
- 第2・3学年の題材の数は、全40、「絵や彫刻」に関するものが14、「デザインや工芸」に関するものが10、「鑑賞」に関するものが9、「材料や用具等学習を支える資料」に関するものが7である。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 第1学年巻末の「体験しよう！美術館」で、美術館の取組や役割を紹介し、美術館について調べる活動を示している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。
- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品ともに一部のものには、青色の四角囲みの中に制作のきっかけとなったことや題材に対する思い等を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- 題材名を影の付いた独自の書体で示すとともに、ポイントとなる言葉を大きな字で示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、背景色と文字の組み合わせが工夫されている。

5 言語活動の充実

(1) 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

- 題材に応じて、「目標」に「話し合おう」等と言語活動を指示している。
- 意見交換しながら作品を制作したり、話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- ポスター制作におけるテーマ選びや主題決定等について、アイデアスケッチやワークシートを活用して話し合う言語活動例を示している。
- 鑑賞レポートや調査レポート、アイデアスケッチの言語活動例を示している。
- 巻頭の「うつくしい！」で作品を見開きで大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって、批評し合ったりする言語活動例を設けている。
- マッピングで発想を広げる方法を示している。

意見

光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

光村図書出版の教科書の特徴である、各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示すとともに、各目標の横にチェックできる枠を設け、生徒が自己評価できるようにし、さらに、目標の下にマークを付して、形や色、材料等のことや、それらがもたらすイメージについて考えさせるための問いかけを示したりしていること、電球マーク等を付して、学習を進める際のヒントや道徳との関連を示していること、生活と関連の深い活動に、「生活に生かそう」マークを付していること、鑑賞レポートや調査レポート、アイデアスケッチなどの言語活動例を示していること、巻頭の「うつくしい！」で作品を見開きで大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって、批評し合ったりする言語活動例を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざしひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や自ら主題を設定し、計画的に制作する力や自分の価値をもって批評し合う力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

1. 基礎・基本の定着

(1) 技法や表現方法に関する記述

- 第1学年では、巻末10ページ、第2・3学年上では巻末10ページ、第2・3学年下では巻末8ページに「表現や鑑賞の資料」「技法の資料」「色彩の資料」を掲載し、基本的な技法や表現方法等を示している。
- 題材に応じて、制作の手順を示すコーナーを設けている。
- 「参照」マークを付して、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

(2) 日本の伝統や文化に関する内容

- 第1学年で「刷って出会う美しさ」「使いたくなる焼き物をつくろう」、第2・3学年上・下で「漫画表現の豊かさ」「日本の美意識」等の題材を設定し、木彫、木版、油彩、水墨画、絵巻物、着物、水引、漆絵、和傘、和菓子、焼き物、屏風絵、貼り絵、型染め、獅子舞の装束、掛け軸、日本庭園を取り上げている。
- 第2・3学年上巻末の「色について理解を深めよう」で、日本の伝統色を掲載している。第2・3学年上巻末に、日本・中国・西洋の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 第2・3学年上巻末に、日本・中国・西洋の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 第2・3学年上では、「富嶽三十六景」2作品を取り上げ、和紙（機械すき）に印刷された原寸大の作品を掲載している。
- 「教科書美術館」で、第1学年では「奄美の海に蘇鉄とアダン」（水墨画着色）、第2・3学年上では「富嶽三十六景」「亀戸梅屋舗」「魚籃観世音」「鯉文花器」、第2・3学年下では「妙法院蓮華王院」、7つの仏像の種類と様式を取り上げ掲載している。

2. 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示している。
- 「教科書美術館」を設け、見開き4ページで美術作品を大きく掲載している。
- 「POINT」マークや三つ葉マークを付して、学習を進める際のヒントや道徳との関連を示している。
- 第2・3学年上「デザインと工芸など」の「豊かなイメージで伝えよう」において、1984年のヒロシマ・アピールズ「鳥たち」を取り上げている。

(2) 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫

- 第1学年に「楽しく伝える文字のデザイン」「記憶に残るシンボルマーク」、第2・3学年に「やさしさのデザイン」「魅力が伝わるパッケージ」等の題材を設定し、生活や社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年下巻頭に「夢をかたちにするデザイン」を設け、身の回りにあるデザインを掲載し、その工夫や発想の仕方を考えさせるようにしている。

3. 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 全3冊で、第1学年、第2・3学年上、第2・3学年下としている。
- 第1学年が全59ページ、第2・3学年上57ページ、第2・3学年下が57ページである。
- 1つの題材を見開き2ページ、または4ページで掲載している。
- 題材等を「オリエンテーション」「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「学習に役立つ資料」に分類し配列している。
- 第1学年の題材の数は、全30、「オリエンテーション」に関するものが3、「絵や彫刻」に関するものが7、「デザインや工芸」に関するものが7、「鑑賞」に関するものが4、「学習に役立つ資料」に関するものが9である。
- 第2・3学年上・下の題材の数は、全56、「オリエンテーション」に関するものが5、「絵や彫刻」に関するものが12、「デザインや工芸」に関するものが11、「鑑賞」に関するものが10、「学習に役立つ資料」に関するものが18である。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 第2・3学年下巻末の「アートを体験する場に出かけよう」で、アートプロジェクトやアートイベント、美術館を紹介している。

4. 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。
- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品の一部のものには、朱色の「作者の言葉」マークを付し、作品に対する思い等を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- 題材名をゴシック体と丸ゴシック体で示すとともに、ポイントとなることを太字で示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字の大きさが工夫されている。

5 言語活動の充実

(1) 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

- 題材に応じて、「目標」に「話し合おう」等と言語活動を指示している。
- 意見交換しながら作品を制作したり、話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- 第2・3学年下の題材「魅力が伝わるパッケージ」で、企画を説明し合ったり、企画を決定する話し合いやプレゼンテーションしたりする活動を設定している。
- アイデアスケッチやリサーチレポート、企画書の言語活動例を示している。

意見

日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

日本文教出版の教科書の特徴である、各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示していること、「POINT」マークや三つ葉マークを付して、学習を進める際のヒントや道徳との関連を示していること、2・3年下の題材「魅力が伝わるパッケージ」で、企画を説明し合ったり、企画を決定する話し合いやプレゼンテーションしたりする活動を設定していること、アイデアスケッチやリサーチレポート、企画書の言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざしひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や自ら主題を設定し、計画的に制作する力や自分の価値をもって批評し合う力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。